

[分類] 普及技術  
 [成果名] りんごのキンモンホソガ防除にフェニックスフロアブルが有効である  
 [要約] りんごのキンモンホソガ防除にフェニックスフロアブルの 4,000 倍液を散布する。蚕に対して長期間毒性があるので、桑園付近では使用しない。  
 [担当] 果樹試験場 環境部  
 [部会] 病虫部会

### 1 背景・ねらい

りんごのキンモンホソガは幼虫が葉の内部を食害し同化能力を低下させ、寄生量が多くなると早期落葉を促すこともある重要防除害虫である。既にフェニックス顆粒水和剤の 4,000 倍液が普及技術となっているが、新たにフロアブル剤が登録され一層のコスト削減効果が期待できる。そこでキンモンホソガに対する防除効果を改めて確認したところ有効であったため、今回普及技術とした。

### 2 成果の内容・特徴

(1) りんごのキンモンホソガ防除にフェニックスフロアブルの 4,000 倍液を散布する。

#### 農薬登録内容

フェニックスフロアブル

[一般名及び成分含量] フルベンジアミド 18%

[毒性] 人畜毒性：毒物、劇物には該当しない [魚毒性] B類相当

[対象作物に対する適用登録状況 (平成 23 年 9 月 27 日 JPP ネット確認)]

作物名	適用害虫	希釈倍数	散布液量 リットル/10 a	使用時期	本剤及びフルベン ジアミドを含む農 薬の総使用回数	使用 方法
りんご	ハマキムシ類	4,000～ 6,000倍	200～700	収穫前日 まで	2回以内	散布
	ギンモンハモグリガ キンモンホソガ シンクイムシ類 ヨモギエダシャク ケムシ類	4,000倍				

### 3 利用上の留意点

- (1) 筋肉組織に作用して収縮を引き起こし、摂食が停止し餓死する。このため、効果の発現はやや遅効的である。
- (2) 卵に対して効果はないが、ふ化途中で死亡する。
- (3) 浸透移行性はなく、キンモンホソガに対しては食入防止効果を狙って成虫発生始期に遅れずに散布する。
- (4) 蚕に対して長期間毒性があるので、桑園付近では使用しない。
- (5) 水産動物（甲殻類）に影響があるので、河川、養魚池へ飛散・流入しないように注意する。
- (6) ミツバチ、マメコバチ、マルハナバチに対してほとんど影響がない。

### 4 対象範囲

県下全域

## 5 具体的データ

### (1) りんごのキンモンホソガに対するフェニックスフロアブルの防除効果

平成 21 年の試験では、キンモンホソガに対してフェニックスフロアブルは対照薬剤デミリン水和剤に優る防除効果が認められた（表 1）。

表 1 りんごのキンモンホソガに対するフェニックスフロアブルの防除効果（平成 21 年、果樹試

供 試 薬 剤	希積 倍数	調査 葉数	100 葉当たり食入被害数		薬害
			散布 21 日後	散布 35 日後(無処理比)	
フェニックスフロアブル	4,000	462	1.7	2.0(14.8%)	なし
デミリン水和剤	3,000	557	1.6	3.2(23.7%)	なし
無 処 理	—	459	6.8	13.5	

試験方法：試験場内ほ場。発生程度は少発生。供試樹は「ふじ」成木。1区1樹2反復。平成 21 年 6 月 24 日に動力噴霧機を用いて十分量を散布した。展着剤はマイリノー10,000 倍を加用した。

調査方法：散布前日にキンモンホソガ幼虫の寄生がない新梢を 1 樹当たり 10 本マークし、散布 21 日後（7 月 15 日）及び 35 日後（7 月 29 日）にマークした新梢毎に葉数および有脚世代幼虫マイン数を調査した（2 区合計）。薬害は達観調査による。

### (2) りんごに対する薬害

いずれの試験においても、りんごに対する薬害は認められなかった。

## 6 参考データ

(1) 平成 21 年に秋田県果樹試験場で実施された試験では、キンモンホソガに対してフェニックスフロアブルは対照薬剤バリアード顆粒水和剤に比較してやや劣るが、無処理と比較して高い防除効果が認められた（表 2）。

表 2 りんごのキンモンホソガに対するフェニックスフロアブルの防除効果  
(平成 21 年、秋田県果樹試験場)

供 試 薬 剤	希積 倍数	調査 葉数	処理 25 日後		薬害
			マイン数	被害葉率	
フェニックスフロアブル	4,000	2,338	5	0.2	なし
バリアード顆粒水和剤	4,000	2,348	1	0.0	なし
無 処 理	—	2,270	43	1.9	

試験方法：秋田県横手市、果樹試験場内。発生程度は少発生。供試樹は「ふじ/M.26/マルバカイドウ」29 年生。1 区 5 樹 1 反復。平成 23 年 6 月 15 日（第 1 世代成虫発生盛期）に動力噴霧機を用いて十分量（15 リットル）を散布した。展着剤はアイヤー10,000 倍を加用した。

調査方法：7 月 10 日（処理 25 日後）に 1 樹当たり 30 新梢を調査した。薬害は達観調査による。

## 7 その他特記事項

[公 開] 制限なし。

[課題名、研究期間、予算区分]

果樹の新規農薬等の効果試験、平成 21～23 年度（2009～2011 年度）、民間受託